

訪日外国人対応による輸出促進連携支援事業

【令和4年度予算概算要求額 96（－）百万円】

<対策のポイント>

日本の食・食文化の魅力でインバウンドの回復・増大を図り、これを農林水産物・食品の輸出につなげる好循環の構築に向けた取組を支援するとともに、新たな需要の開拓のため、訪日外国人及び海外消費者を中心に関心が高まっている日本の食・食文化について、より高付加価値な情報の整理・発信等に向けた取組を支援します。

<事業目標>

- インバウンド需要の増大（訪日外国人旅行者数6,000万人、旅行消費額15兆円〔2030年まで〕）
- 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

<事業の内容>

1. 食体験コンテンツの造成・提供支援

地域の食・食文化の魅力で訪日外国人の誘致を図る重点地域（SAVOR JAPAN）を中心に、訪日外国人のニーズに対応した食体験コンテンツの造成・磨き上げを支援するとともに、DXの活用等による効果的かつ一元的な情報発信を支援します。

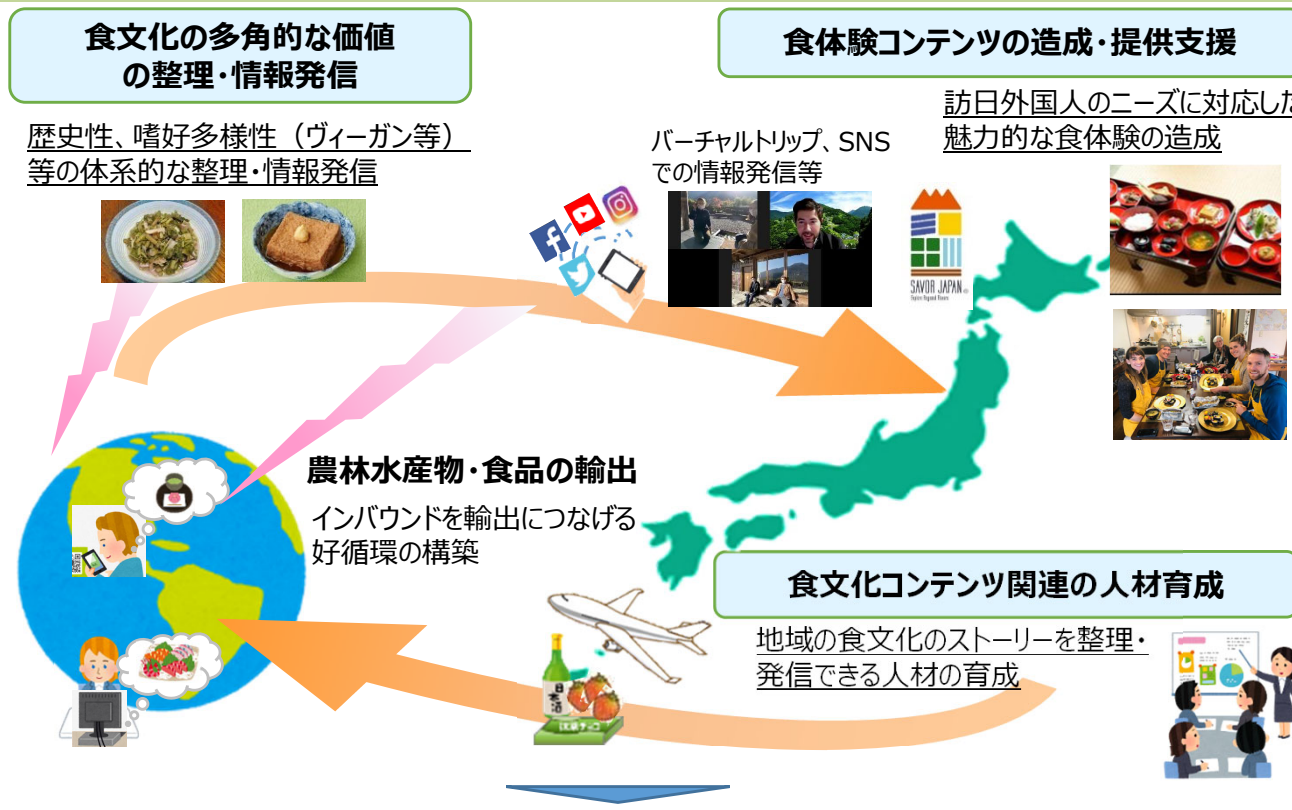
2. 日本の食文化の多角的な価値の整理・情報発信

食文化の多角的な価値*の情報を、体系的に整理・調査し、国内外にわかりやすく情報発信します。
〔※歴史や文化、製造方法などの伝統や特徴、健康有用性、持続可能性等〕

3. 食文化コンテンツ関連の人材育成

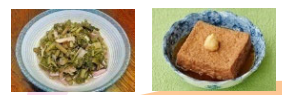
国内外に向けて食文化の普及活動を行う中核的な人材の育成を行います。

<事業イメージ>



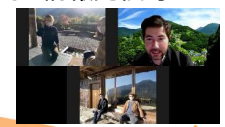
食文化の多角的な価値の整理・情報発信

歴史性、嗜好多様性（ヴィーガン等）等の体系的な整理・情報発信



食体験コンテンツの造成・提供支援

バーチャルトリップ、SNSでの情報発信等



訪日外国人のニーズに対応した魅力的な食体験の造成



農林水産物・食品の輸出

インバウンドを輸出につなげる好循環の構築

食文化コンテンツ関連の人材育成

地域の食文化のストーリーを整理・発信できる人材の育成



訪日外国人旅行者数6,000万人、旅行消費額15兆円（2030年まで）
農林水産物・食品の輸出額（2兆円（2025年まで）、5兆円（2030年まで））

<事業の流れ>



日本の食文化の多角的な価値の整理・情報発信事業

【令和4年度予算概算要求額 96（一）百万円の内数】

<対策のポイント>

ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」を保護し、次世代に継承していくため、地域固有の多様な食文化の保護・継承を推進します。
日本の多様な食文化は、海外における日本食の人気を支えており、その歴史性・健康性・持続的な側面は、海外で**日本産農林水産物を他国産と差別化できる強み**となります。しかしながら、地域の食文化に関する情報は、総論的に活用できない状況にあることを踏まえ、国内外の新規需要拡大、食文化の保護・継承等の観点から、それら**付加価値のある情報を一元的・体系的に整理・多言語化**し、国内外に分かりやすく情報発信を行います。

<事業目標>

- 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）
- 第4次食育推進基本計画における目標である「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合」の増加（44.6%〔令和2年度〕→50%以上〔令和7年度まで〕）

<事業の内容>

国内外のニーズを捉え、輸出促進、食文化の保護・継承のため、地域の食文化のストーリー・付加価値のある情報※を一元的・体系的に整理し、分かりやすく情報発信を行います。

〔※ 日本の風土・食材の特徴：歴史、文化、製造方法などの伝統や特徴、健康有用性、植物性（ヴィーガン性）、持続可能性への貢献等〕

1. 有識者検討委員会の開催

全国各地に存在する伝統食品を含む地域の食文化について、国内外ニーズや国内における保護・継承の観点から、有識者による検討会を開催し、情報の整理・発信のあり方を議論します。

2. 調査、取りまとめ

現地調査・文献調査を実施し、体系的に整理します。

3. 取りまとめ内容の国内外への情報発信

調査結果をWebサイト等へ掲載し（多言語化含む）、情報発信を実施します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

